

いつもと同じカメラで “特別な1枚”を撮ってみよう！

元気な3歳のお子さんの撮影をするとき、“1枚の絵をつくる”ことを意識してシャッターを切ってみませんか？“絵をつくる”うえで知っておきたいのはレンズの特徴。今回は、お子さんのイキイキとした表情を引き出しつつ、背景にも奥行きや広がりを持たせられる「広角機能」を活かした撮影法を紹介します。

鈴木啓太さん

コマーシャルスタジオ「OFFICE KEITA」主宰。広告写真を全般に、雑誌や新聞なども手掛けるフォトグラファー。人物からモノ、風景、食までジャンルを問わず幅広く撮影する。小学校に通う6歳の女の子のイクメンパパ。



デジタルカメラの普及や携帯電話のカメラ機能の進化で、写真を撮ることが本当に身近になりましたね。ただ、「いろいろなカメラを使ってみたけれど、出来上がるのはいつも同じような写真ばかり…」なんて経験はありませんか？運動会やお遊戯会のような“記録写真”ではなく、お子さんの表情や動きを重視した“特別な1枚”を撮るためには、レンズの特徴を理解し、その効果を活かした撮影法を覚えておくとう便利です。

オススメ



子どもに近づいて撮った写真

よく遊び、元気に走り回る3歳児のベストショットを撮影するポイントは、カメラ（携帯電話）の位置をお子さんの目線まで下ろすこと。例えば、座っていたり、寝ている様子を撮影するときは、上から見下ろすのではなく、子どもの目線に合わせてカメラ（携帯電話）を構え

てみましょう。パパやママの目線が近くなるだけで自然な笑顔が引き出せ、お子さんの表情はぐんと良くなるはずです。そして、この撮影法に適しているのがレンズの広角機能です。一般的なデジタルカメラならば「風景モード」、携帯電話なら最も画面を“引いた”状態、と



子どもを遠くから望遠で撮った写真

いえばイメージしやすいでしょうか。レンズの広角機能を使うメリットは、お子さんとの距離が近づくことで細かな表情や動きを捉えられること。また、背景にも奥行きや広がりを持たせることができます。

目線を合わせてレンズの広角機能を活用する。この2つを知っておくだけで“絵づくり”のパターンが増え、撮影した写真の印象は大きく変わるはずです。ぜひ、お子さんと一緒に走り回って、いつもとは違う“特別な1枚”を撮ってください！